

地方創生推進交付金事業 効果検証シート（令和4年度分）

担当課	総務部企画政策課
-----	----------

交付対象事業名	この指とまれ！ 弥富の人・情報・想いをつなぐ “YTM.Meeting：ヤトミーティング” プロジェクト											
総合戦略での位置付け	基本目標1 稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする 基本目標2 つながりを築き、新しいひとの流れをつくる 基本目標4 ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる	事業費	計画額（円）	5,000,000								
			実績額（円）	4,730,000								
事業目的・概要	<p>【目的】 多様な主体の交流とあらゆる情報や資源の共有を市民協働により推進し、「市民が何かに困った時」、「何かを頑張ろうと思った時」に時間や場所、年齢や性別、置かれている境遇などに関わらず、誰もが活路と活躍の機会を見出せるまちの実現に向けて取り組み、人と人がつながることで安心感や賑わいを醸成し、ずっと住み続けたいと思う住民を増やすことを目的とする。</p> <p>【概要】 （1）地域資源バンク制度の構築 公・共・私問わず市内の様々な資源（ヒト・モノ・場所）のマッチングを可能とするため、「地域資源バンク制度」を構築し、そのウェブサイトを作成することで人的資源の情報の見える化を図る。</p> <p>（2）α拠点（市役所本庁舎南棟内に設置する市民活動スペース）の設置・運用 α拠点は当面は市が事務局を担い、地域資源バンクの運営を行いつつ、β拠点（個性や得意な分野を活かした活動やその活動拠点）の開設や活動を支援する。 β拠点同士をつなぐハブとしての機能を持ち、主にβ拠点の紹介やニーズ別の案内を行うなど、統括的な役割を担う。 営利目的を可能とした市民の活躍の場を提供することで、多様な主体のつながりを生み、事業の主体者やサービスの受給者に達成感や充実感を感じてもらう。 ヤトミーティング主催のイベントなどを企画することで、β拠点同士の交流の促進、市民の利用促進を図る。</p> <p>（3）β拠点の認定制度の設計・運用 各々個性や得意な分野を活かした活動やその活動拠点等をβ拠点として認定し、推進する認定制度を設ける。</p> <p>（4）ヤトミーティングの法人化 ヤトミーティングが住民自治組織として自立して活動していけるよう、法人化に向けた手助けを行う。</p>											
主な成果	令和4年度においては、本プロジェクトの実施に向けた検討・準備段階と位置づけ、地域資源バンク制度の構築や地域資源バンクウェブサイト制作、α拠点整備活用計画を作成した。（β拠点の認定制度については、地域資源バンク制度と併せて構築した。）											
重要業績評価指標（KPI）	指標（単位）	基準値	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
	α拠点が仲介して、市民の相談事が解決に繋がった件数（件）	0	0	0	12		36		48		60	
	α拠点が仲介して、β拠点同士が連携した件数（件）	0	0	0	6		12		18		24	
	地域資源バンクの登録件数（件）	0	0	0	50		70		90		100	
	YTM.Meetingプロジェクトに参画・参加する市民の人数（人）	16	19	35	22		25		28		31	
事業効果	効果	③本事業は地方創生に効果があった										
	理由	YTM.Meetingプロジェクトに参画・参加する市民の人数が目標値を達成したことにより、まちづくりに興味・関心がある市民の掘り起こしや、市民の主体性の育成に繋がっていると考えるため。										

〈選択肢〉

- ①本事業は地方創生に非常に効果的であった
- ②本事業は地方創生に相当程度効果があった
- ③本事業は地方創生に効果があった
- ④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	方針	③事業の継続
	理由	令和5年度は準備段階を経た事業の試験運用段階であることから、地域資源バンクウェブサイトに登録する地域資源の調査及びウェブサイトへの登録など、試験的に実施するための体制を早期に整備する必要がある。

〈選択肢〉

- ①追加等さらに発展させる
- ②事業内容の見直し（改善）
- ③事業の継続
- ④事業の中止
- ⑤予定どおり事業終了

外部有識者からの評価	意見	<p>これまでの地域団体・地縁団体の活動のように慣例化した行事を毎年実施しなければならないという「煩わしさ」が組織率・参加率の低下や活動の低迷を招いて、それが地域全体の活力のなさにも蔓延していたが、ヤトミーティングは「楽しく」活動することを念頭に置いており、地域社会に新たな風を吹き込む起爆剤になりうる。</p> <p>昨年度の参加者数は、目標値の2倍強となり、今後の主体的・自律的な活動の進展が大きく期待できる。プロジェクト実現のためには、組織の法人化をめざし、持続可能な団体としての活動基盤の強化が望まれる。また、市側も市民団体等の活動支援と市民団体等が連携して主体的・自律的に活動できる拠点の整備等を順次進めていく必要がある。プロジェクトの着地点を明確化し、行程表を作成してプロジェクトの進捗管理を進めていくことも必要である。</p>
------------	----	--